

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	栃木県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	烏山町立烏山小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	3	3	2	3	2	18	37
児童数	83	71	83	96	75	82	10	500	

II 研究の概要

1 研究主題

個性を生かすための指導法の工夫
～児童一人一人のよさや可能性を伸ばす評価と指導～（第2年次）

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年（全学年） 実施教科（算数科）
（理由）

- ・系統性の強い教科であること
- ・達成度としての学力に差があること
- ・学習スピードに差があること
- ・学習スキルに差があること
- ・興味・関心に差があること

(2) 年次ごとの計画

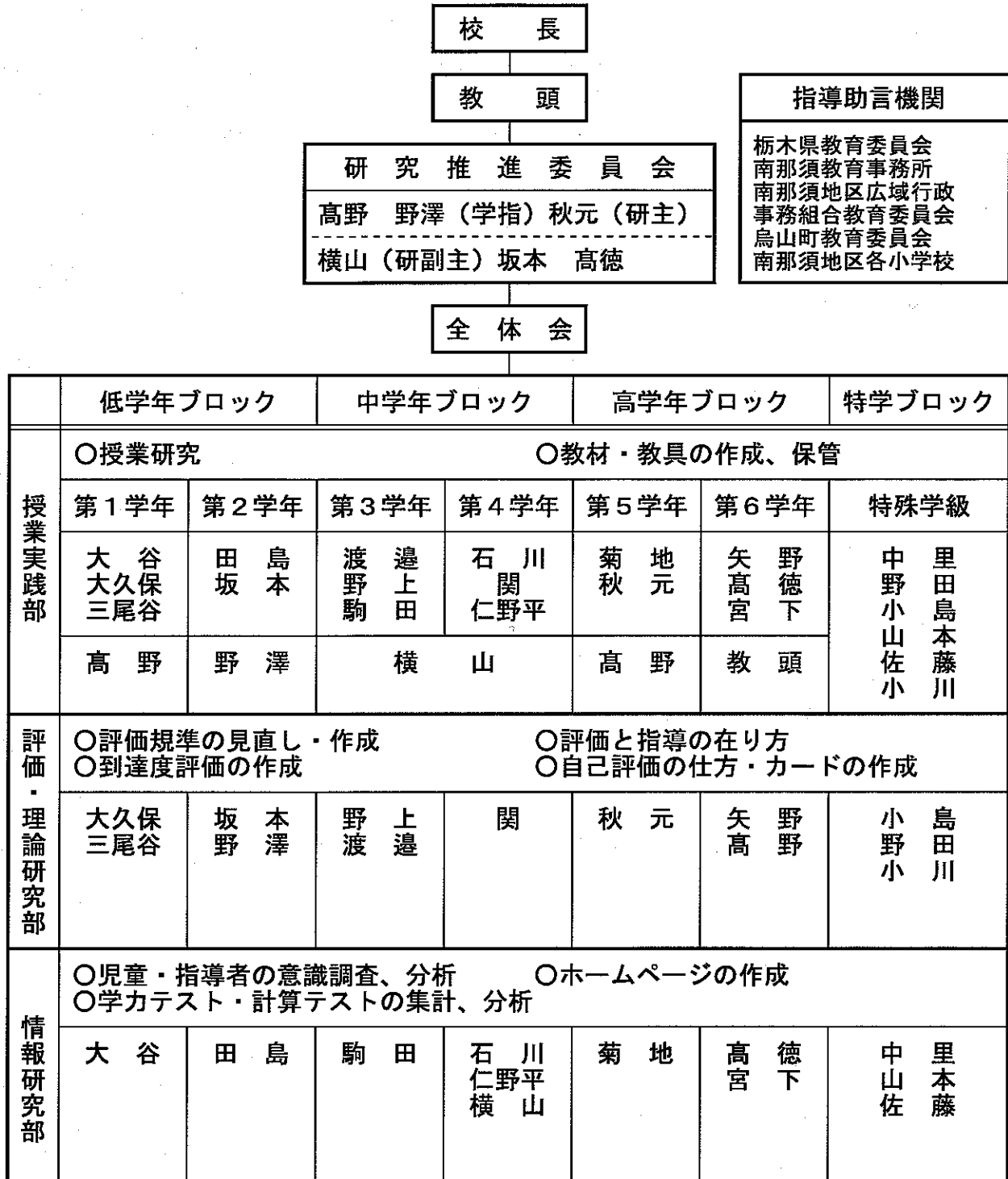
平成14年度

- テーマ
個性を生かすための指導法の工夫
～児童一人一人のよさや可能性を伸ばす授業の展開～
- 研究の見通し（仮説）
児童一人一人のよさや可能性を伸ばすために、習熟の程度に応じて弾力的に学習集団を編成し、きめ細かな指導で基礎・基本をしっかりと身に付ければ、児童一人一人の個性に応じて力を伸ばすことができるであろう。
- 研究内容・方法
 - ・校内の指導体制・研究体制の整備
 - ・個性を生かすための指導方法、指導体制の工夫改善
 - ・個に応じた指導のための教材開発と保管
 - ・保護者への啓発活動

平成 15 年度	<p>○テーマ 個性を生かすための指導法の工夫 ～児童一人一人のよさや可能性を伸ばす指導と評価～</p> <p>○仮説 ・児童一人一人の学習状況、興味・関心、適性等の特性に応じて、弾力的に学習集団を編成し、指導方法や指導体制を工夫改善していけば、基礎・基本の確実な定着が図られ、個性を生かす指導ができるであろう。 ・児童一人の学習結果や学習過程における状況を適切に評価し、自己評価を生かした指導を行っていくならば、指導方法の工夫改善が図られ、児童自身も学習の実現や学びの状況が確認でき、基礎基本の確実な定着と個性を生かした指導ができるであろう。</p> <p>○研究内容・方法 ・指導方法、指導体制の工夫改善 ・個性を生かすための教材開発と工夫 ・評価方法のあり方 ・評価を生かした指導のあり方 ・自己評価を生かした指導のあり方</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>○テーマ 個性を生かすための指導法の工夫 ～児童一人一人のよさや可能性を伸ばす指導と評価～</p> <p>○仮説 ・児童一人一人の学習状況、興味・関心、適性等の特性に応じて、弾力的に学習集団を編成し、指導方法や指導体制を工夫改善していけば、基礎・基本の確実な定着が図られ、個性を生かす指導ができるであろう。 ・児童一人の学習結果や学習過程における状況を適切に評価し、自己評価を生かした指導を行っていくならば、指導方法の工夫改善が図られ、児童自身も学習の実現や学びの状況が確認でき、基礎基本の確実な定着と個性を生かした指導ができるであろう。</p> <p>○研究内容・方法 ・指導方法、指導体制の工夫改善 ・個性を生かすための教材開発と工夫 ・評価方法のあり方 ・評価を生かした指導のあり方 ・自己評価を生かした指導のあり方</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

(1) 児童の姿から

- 児童一人一人の興味・関心、学習状況、適性などの特性に応じて、多様な指導方法や柔軟で弾力的な指導体制と学習集団を組織したことで、学習内容をよく理解できたと答えた児童が多く、テスト結果にも成果として表れている。
- 教育ボランティアとして地域人材を活用したことで、1学級3指導者の少人数指導を実施することができ、学習に関しての興味・関心・意欲が一段と高まった。

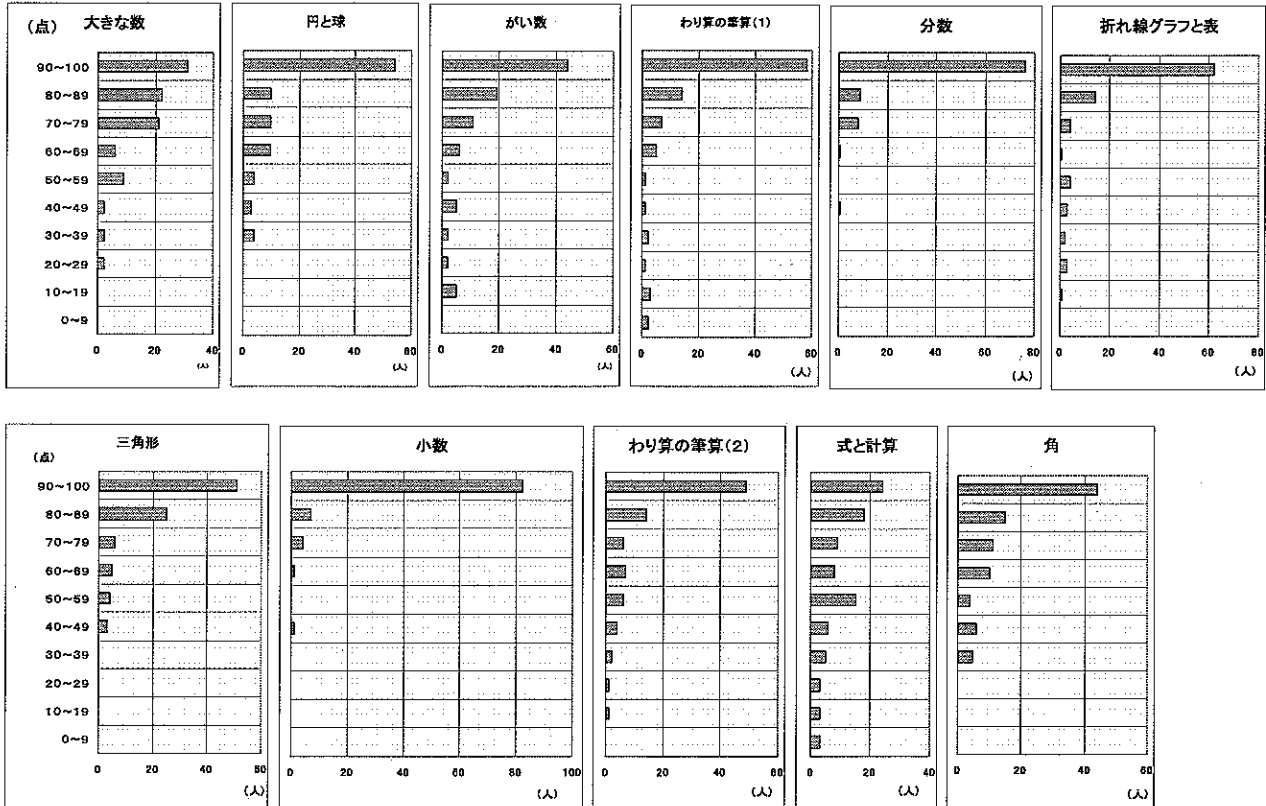
○ 個に応じた教材の工夫や評価を生かした指導を行ったことで、授業に生き生きと取り組むようになり、基礎・基本の定着につながっている。

(2) 教師の姿から

○ 指導方法、指導体制が整い、授業の質的な改善を目指そうと教師一人一人が今までにもまして熱心になった。

○ 指導計画、評価計画を見直し改善を図ったことで、指導の重点が図られ、指導と評価の一体化が図られるようになってきた。

(例) 第4学年ワークテスト結果



2 今後の課題

(1) 多様な指導方法を推進していく中で、「個人差」にどのように対応していくか、また、授業の中で「個性」をどのように生かしていくかを、さらに研究していく必要がある。

IV 学力等把握のための学校としての取組

○ 計算力テスト（自作テスト）

計算力テストは、表現・処理能力を把握するために実施していたが、昨年度より、数学的な考え方、知識・理解に関する問題もテストの中に取り入れ、3年間、同じ問題で児童の変容を見るとともに、指導に生かしている。実施時期は11月である。

○ DRT TK式観点別到達度学力検査

児童の学力状況を把握するために、国語、算数の2教科を実施している。実施時期は1月下旬。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 本校では、毎年（今年度で3年目）、研究成果の確認という意味で、研究集録を作成している。作成した集録については、地区内の教育事務所、教育委員会、小・中学校に配っている。
- 南那須地区学力向上推進協議会において、本校の研究についての内容や実践例などについて、説明する機会を設けていただいた。
- とちぎテレビの番組「とちぎ教育新事情」において、本校の研究の取組について放送をしていただいた。
- 自由参観日（学期に1日）には、全学年、算数科における授業を保護者に参観していただき、研究についての理解と協力を得ている。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無